

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和1年11月19日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 10名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	9名	

※事業所記入

事業所番号	3873500536
事業所名	グループホームすまいる
(ユニット名)	1F
記入者(管理者)	
氏 名	鐵宮 翔太
自己評価作成日	令和1年11月1日

【事業所理念】 将来の自分(自分の家族)が入居したくなるようなグループホームを目指す。	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 利用者様の気持ちに寄り添い、安心して過ごして頂ける環境作りやコミュニケーション また、御家族様との交流を大切にし、利用者様は笑顔で過ごされている。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 「将来の自分(自分の家族)が入居したくなるようなグループホームを目指す」を理念に掲げている通り、利用者の潜在能力を活かし、日々の生活の中で機能の維持向上を図る取り組みが実践されている。職員は利用者の目線に合わせて話しかけており、職員と利用者の生き生きとした笑顔と笑い声が溢れている。管理者は職員との信頼関係を築き、事業所の運営に丁寧に取り組んでおり、今後ますます期待できる事業所である。
--	---	---

評価結果表

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	一人ひとりと会話や、接する時間を作り、希望やお気持ちを聞くようにしている。	○		◎	暮らしの中で利用者との会話や職員の気づきをもとにケアカンファレンスで話し合い、一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	常に入居者の目線になり、検討している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合い理解を深め共有している。	◎	ご家族との相談の中で「本人の思い」について話し合い理解を深め共有している。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	日々の生活を記録し、また介護相員と連携し、職員に言えないことを把握するようにしている。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	日々の引き継ぎや、職員会議にて現状の把握に努めている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居前のアセスメントシートにて、利用者さんの経歴、身体経過等、スタッフ間で共有し把握しています。ご家族様が来られた時も、お話を聞くようにしている。			◎	入居前の事前面接で、利用者や家族のほか、関係機関の担当者やこれまで関わってきた介護支援専門員等から生活歴や生活環境、身体状況等を聞き取っている。入居後も家族の面会時等に話を聞き、情報を整理した上で職員間で共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	利用者一人一人の現状身体、潜在能力等把握し、生活リハビリを取り入れ、有する力を高めるよう努力している。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	記録や引き継ぎにて、状況把握を毎日している。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	日々、職員同士で話し合いをしています。安心して生活して頂けるよう支援している。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	記録を確認し、話し合い把握するようにしています。また定期的なケアカンファレンスにて変化にも対応できるようにしている。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	日々の記録や引き継ぎをもとに、ご本人の言動や顔つき等を読み取りながら職員間で話し合っている。			◎	利用者の日々の生活の様子や言葉、家族の話、毎日の記録、申し送り等から得られた情報をもとに、計画作成担当者を中心に職員間で話し合い、利用者の視点で検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	定期的にモニタリングしたり、随時ケアカンファレンスしている。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	ケアプラン内容を把握し、カンファレンスを行い、その時必要なケアを重点的に取り組めるようにしている。				

愛媛県グループホームすまいる

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ご本人の思いをくみ取れる様、出来る限り会話したり、寄り添い、動向を確認している。				利用者や家族に話を聞いて職員等関係者で話し合い、意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	ご家族面会の折には、出来る限り多くのエピソード等を聞き取れる様対話し、課題が見つければ職員間で話し合っている。	○		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	ご本人の慣れ親しんだものを居室に置いて安心感を得られるように工夫し、ご本人の顔色や顔つきを見ながら、言葉かけや見守りを行なっている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	ご家族の意向等が明確で有る場合、ケアプランに取り入れ、支援するようにしている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	ケアプランに基づき、それに沿った支援が出来るように心がけている。			◎	利用者一人ひとりの介護計画はカンファレンスで理解し、ファイルにまとめて確認できる状態で共有している。介護記録には支援内容と利用者の状況を記録しており、計画に沿った実践内容と評価を明らかにしてケアの向上に努めている。利用者の暮らしの様子は、介護記録に具体的に記録し、職員の気づきや工夫、アイデアは業務日誌に記録して職員間で共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	職員同士話し合いの場をもうけ、日々状況確認し、よりよい支援を行うよう努力している。			○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	利用者さんの日々の状態、個別に記録し変化等、常に把握出来るようにしている。			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	日誌にて、細やかな記録を書き、日々意見支援している。			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	新規の方は、基本1～2ヶ月で見直しを行い、入居期間の長い方でも、その状態に応じ、必要であれば都度、見直しを行っている。基本、半年を目途に見直しを行っている			◎	介護計画は6か月で見直し、初回のみ2～3か月で見直している。新たな要望や変化が見られない場合でも2か月に1回の定期会議で利用者全員の状態確認を行っている。入院等状態に変化が生じた場合は、退院時に家族等関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	2ヶ月に一度の全体ケアカンファレンスと状態に応じてのケアカンファレンスを随時行っているの で、ほぼ、現状確認は出来ていると思う。			○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入退院時等、常にプランの見直しや作成をしている。またご家族とも会話を積極的に行い、情報収集をしている。			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的に職員会を開いており、また緊急案件が挙がってきた場合は必ず時間をとっている。			○	2か月に1回定期的に職員会議を開催し、夜勤者以外の職員全員で話し合っており、緊急案件があった場合は、その日出勤している職員でその都度話し合っている。参加できなかった職員には、議事録や申し送りで伝えるようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	会議では全員が発言できるようユニットリーダーを中心に進めており、職員にも事前に意見をまとめてもらうよう伝達している。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	当日夜勤以外は参加できるように努めている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録を作成したり、引継ぎ等にて伝達できるようにしている。			○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	日々、意見支援し2か月に一回、職員会議を行い、共有している。			○	利用者の状況や気づき、業務連絡は、業務日誌に記載して1日3回各シフト出勤時の申し送りで伝え、定期会議での決定事項等重要事項は、議事録を作成して共有している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送り時に話し合ったり、決定した事は、ノートに記入し全員が把握出来るようにしている。	◎			

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者さんの体調に応じて検討し、できるだけ叶える努力をしている。				着る服やおやつなどの時間の飲み物等は利用者を選択してもらい、洗濯物たたみ等の家事の手伝いも自分の意志で参加できるよう場面設定を心がけている。入居時のアセスメントシートから一人ひとりの生活歴を把握し、家族との会話の中からも情報を得て、利用者の興味を引く話題提供や言葉かけを行っている。調査時にもリビングは職員や利用者の笑顔や笑い声であふれていた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	第一に利用者さんの意見を優先し、着る物をご自分で選んで頂いてる。			○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	会話の中で希望を話せるような声かけを行っている。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	食事等、時間は決まっているが、一人一人のタイミングやペースに合わせて配慮している。				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	利用者さんに日々、笑顔でいてもらうよう、レクや声かけし、対応している。			◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や身体の動き等、把握し、少しの反応も見逃さないようにしている。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	声かけの言葉に注意したり、トイレの戸をなるべく閉めて対応している。		○	◎	管理者は、職員の入職時やカンファレンス等で、利用者のプライバシーを尊重するよう指導しており、職員は常に意識して行動するようにしている。トイレ誘導等は他の利用者に気づかれないようさりげなく声をかけている。居室への入室時にはノックや声かけを徹底し、調査時にも利用者に声をかけて了承を得てから入室している様子が窺えた。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	◎	声かけや対応、常に意識し、個別の対応時は、近くに行って声かけしている。			◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら助助を行っている。	◎	個室、扉を開め、プライバシー等配慮し、その方の状況により、ドアの外で見守ったり、少し開け見守りするようにしている。				
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室に入る前は、必ずノックしたり、声かけをし、おどろかれる事がないようにしている。			◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報漏えい防止、守られている。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	利用者、職員、お互いに感謝の言葉があり、穏やかな関係を築けている。				職員は利用者同士の関係性を把握しており、不穏な雰囲気にならないよう間に入ったり、ゲーム感覚でさりげない席替えを行ったりしている。入居歴の浅い利用者が溶け込みやすいよう声をかけ、他の利用者との橋渡しをしている様子も印象的であった。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者さん達共に協力し、支え合い、個々で刺激され、潜在能力を高めている。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	利用者同士の関係を把握し、独立する方も間に入り、皆さんと仲良く出来るよう支援している。			◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	即座に対応出来るよう見守り、間に入り解消するよう努力している。				

愛媛県グループホームすまいる

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	ご本人に聞いたり、家族様に聞いて把握している。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	ご家族様から聞いたり、本人からも話を聞き、把握している。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	ご本人との会話の中で聞きご家族様が来られた時にお話して外出したり職員もお連れできるよう協力している。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	居室にてお話しされたり、ホールでもお話できるよう心掛けている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	季節によって外出が少ない時も外気浴やドライブ等行かれ、気分転換して頂いている。	○	○	○	近くの紅葉を見にドライブしたり、毎日の買い物と一緒にしたりする等、定期的な外出支援を実施している。重度の利用者を含め、戸外に出て外気に触れ、季節感を味わってもらえるよう努めている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	行事の時などに、ボランティアに来てもらっている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	季節によって着る物を調節して、外に出て季節の雰囲気を感じて頂いている。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	職員、ご家族様と協力し、支援している。				
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	常に利用者一人一人のケアについて、職員間で話し合い支援に努力している。				利用者一人ひとりの状況を把握し、自立支援に向けて目標を立てて取り組んでいる。食事や車いす移動の際は、職員は極力手を出さず見守りながら支援している。居室入口の手すり、利用者の状況に合わせて設置したり、外したりしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	常に健康状態を把握しており、現状維持できるよう支援している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	利用者一人一人の潜在能力を生かし、出来ない時には、介助するようにしている。	○		◎	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	アセスメントシートや、会話にて本人が出来ることを探し、把握している。				調理の下ごしらえや掃除等、一人ひとりに役割や出番を作っており、利用者が進んで取り組めるよう働きかけ、張り合いや喜びに繋げている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	潜在能力に応じて手作業して頂いたり、皆様と協力して張り合いの場を作り、現状維持を保てるよう支援している。	○	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の行事に参加し、楽しめるよう支援している。				

愛媛県グループホームすまいる

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしやれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしやれについて把握している。	◎	自分で選べる方は好みの服などを選んで着られている。自分で選べない方は季節に合った服を職員で検討し着て頂いている				衣服の乱れ等を見つけた際はさりげなく声をかけ整えている。重度の利用者もフロアに出る際には着替えをして整容している。重度の利用者を含め、2か月に1回訪問美容師にお気に入りの髪型に整えてもらっている。家族と一緒になじみの美容室に出かける利用者もあり、その人らしさが保てるよう努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	定期的な訪問理容があり、好きな髪形にすることができる。また行きつけの理容室がある方は外出時にして頂くこともできる				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	本人の話を聞いたり、職員が気付いたりして支援している				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	本人と話して決めたり、自分で選べない方もその時に合った服装を選んでいる				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	ボタンの掛け違いなどさりげなくお声かけしたり、髭剃りなどは会話しながら楽しくできるよう心掛けている	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	ご自分で行ける方は外出時などに行かされている。またそれ以外の方は定期的に訪問理容を利用されている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	ご家族の意見や好きな髪形をお聞かせいただいたり、どのような服が好きだったかなどをできるだけ理解している			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	入居者の状態に合った形にし、提供出来るようにしている。				献立づくり担当の職員が、他の職員や利用者の意見を聞いて1週間分ずつ作成している。利用者と一緒に近くのスーパーに毎日買い物に行き、旬の食材を調達している。近くの畑で収穫した野菜や果物のおすそ分けがあれば献立を変更することもある。昼食は調理員が、朝食と夕食は職員が作っており、利用者は調理の下ごしらえや後片付けを手伝っている。利用者の好みやアレルギーは入居時に確認している。食器は利用者の使い勝手の良いものを使用している。職員も一緒に食卓を囲み、サポートしながら食事していた。利用者全員が台所に面したりリビングで過ごしており、調理の音や匂いを感じながら食事を待っていた。献立は、栄養バランスが偏らないよう定期的に話し合っている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	日常の会話で食べたい物を聞いたり、一緒に買い物に行ったりしている。			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	買い物時、食材を選んでもらったり、食器拭きなどしてもらっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	本人やご家族から話を聞き、嫌いなものは量や味を変えて対応している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味などを取り入れている。	◎	利用者の方に料理の技法を聞いたり、味付けを考えたりしている。今現在アレルギーの方はいない。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いどりと器の工夫等)	○	彩を考えたり、大きさや形、トロミなどを考えた盛り付けにしている。常に食事の状態を観察し、変化があった場合はその都度職員間で相談している				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	本人が希望されているものを使われている			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	一緒に食べながら食べにくい大きさの物は食べやすくカットしたり、苦手な物は上手に言葉がけするようにしている。一品ずつ食べようとする方は他の物も美味しいことを伝え、バランスよく食べて頂けるようにしている			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	言葉がけにて美味しさを伝えるようにしたり、口に運ぶ際に何を食べようとしているか伝えるようにしている	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	定期的に測っている体重や毎日の体調に応じて調整している。また季節や気温なども考慮している				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	飲みにくい方には飲み物を変更したり、回数を調整している				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士は在中していないが、一般的に体に良いものや、同じものばかり使わないように献立している			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	調理器具も消毒したり、新鮮な食材を前日に買い物をして使用している				

愛媛県グループホームすまいる

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	利用者の状態に合わせ、ブラシを変えたり歯磨きティッシュなどを使用し清潔に保てるようにしている				毎食後に口腔ケアを実施して利用者一人ひとりの口腔内の健康状態を把握している。自分で歯磨きができる利用者は、職員が声をかけて洗面所で歯磨きし、できない利用者は、職員が介助して口腔内の清潔保持に努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	本人の訴えや、口腔ケア時によく観察し把握している			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科受診時などに学び、共有している				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	自分でできる方はしていただき、さりげなく確認している。また介助が必要な方は支援している				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。 (歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	口臭のある方は舌のブラッシングや口臭予防のできるものを使用している			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	本人の訴えだけでなく、食事のペースが落ちてきているなどの症状が表れたときなどにも口腔内の状態を確認し、歯科医に相談し受診している				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	本人に相談する際に傷つけない言葉かけの仕方にも話し合いを持ち、本人が納得した上でその時に応じたものを使用している				トイレで排泄することを基本としており、排泄用品等の必要性を考慮した上で、利用者一人ひとりの状態に合ったものを使用している。夜間も一人で排泄できるよう、ポータブルトイレを設置する等工夫している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	個々に合った水分量や運動量の把握をし、便秘にならないよう工夫している				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	個々の利用者の排泄時間を記録し、間隔やパターンを把握できている				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	座位が取れる方・立ち上がりができる方などを把握し、個々の状態に合わせ支援している	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	本人の機能だけにとらわれず、トイレの広さや構造によっても改善に向かえるよう話し合いをしている。また運動や水分を増やすなど、出来るだけ自然な形で排泄できるよう対応している				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	全てではないが、立ち上がられた時やお部屋で休まれようとする前など、利用者の様子によって声かけし誘導で来ている				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	本人と話し合いを設けたり、職員で相談し夜間は安心して就寝できるようなものを使用している				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	職員で話し合い、利用者の変化にも気を付け使い分けている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	食事や運動を工夫し、自然排便ができるよう促している				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	ホームの構造上、曜日や時間帯は決まっているが、その日の体調を見ながら長さや温度に気を付けて入浴できるようにしている	◎		○	週に2回入浴支援を行い、要望があれば入浴日以外でも入れるよう臨機応変に対応している。リフト浴も設置されており、重度の利用者等も安全にゆっくりと入浴できる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	◎	入浴剤を使用するなど工夫している				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	自分でできることはして頂き、できないことは介助している				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	声かけに工夫し気持ちよく入って頂けるように支援している				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前には必ずバイタルチェックし、入浴後も水分補給や体調管理をしている				

愛媛県グループホームすまいる

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	就寝時間や途中起きられた時間などを記録したり、また利用者にも睡眠の状態を教えて頂き把握している				日中の活動量や日光に当たる時間を増やすことで、夜間眠れるよう工夫している。寝付けない利用者にはリビングで過ごしてもらい、安易に薬剤に頼らないようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	照明や空調を考え眠りやすい環境づくりを心がけている				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	日中に運動して頂いたり眠れていない方は休息をとって頂いている			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	その時に応じて本人に個別に取って頂いたり、重度の方は休んで頂いている				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人の希望により電話をかけたり、またご家族にも本人の要望を伝えたり面会に来て頂けるようお伝えしている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	ご本人が手紙を書けない時は、一言でもメッセージを書いて頂いたり、名前を書いてもらうなど、各々に少しでも出来る事を促し、支援している。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	要望があれば、ホール内の携帯を繋いんだり、個室での電話も出来るようにしている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	わかる方には渡したり、読めない方には朗読や内容をお伝えしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	電話をかけたいという要望があれば随時対応しており、特に県外で面会が困難なご家族にはお手紙などを頂けるようお伝えしている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	一緒に買い物に行ったときにお菓子や個人的な日用品など欲しいものを買うようにしている				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	基本的には金銭の所持はトラブルを避けるためご家族にもご理解を得てお断りしているが、必要なものは施設での立て替えにて対応し、購入できるようにしている				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	毎日行くスーパーは地域内にあり、ホームの事も知っている為、その会話や言葉掛けで、ケアの事を理解して下さっていると思う。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	基本的には金銭の所持はトラブルを避けるためご家族にもご理解を得てお断りしているが、事務所の金庫でのお預かりはしており、必要な時にはいつでも使えるようにしている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	本人やご家族と話し合い事務所で管理できている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	ご家族との同意のもと金銭の管理は事務所にて行っている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	利用者やご家族と話し合い、自由な外出・面会など柔軟に行っている。また今までにない要望があった場合は、難しいと決めつけず安全性や体調に考慮し、話し合い検討している	◎		○	夜間の救急診療を含め、職員が病院まで付き添う等、柔軟なサービスに努めている。

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	入口に段差はなく広く取り、出入りのしやすい物の配置に考慮し、花を飾るなどのインテリアも考えている。	◎	◎	○	木製のベンチが置かれた玄関アプローチや駐車場は開放的で親しみやすく、花を飾る等入りやすい雰囲気になっている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそごような設えになっていないか等。）	◎	玄関には利用者や作成した花などを飾ったり、居間や廊下には季節や行事ごとに写真や飾りつけをしている	○	◎	○	リビングは広々として車いすでも動きやすく、小上がりの量の間もあり、日中そこで休んでいる利用者もいる。床暖房が心地良く、毎日の掃除や換気も行き届き、気持ちの良い空間となっている。リビングや廊下の壁には、利用者と一緒に作成した壁飾りや行事の写真を掲示している。11月からはクリスマスツリーやリースを飾り、季節感を楽しめるようにしている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日掃除し、消臭剤を置くなど不快感がないようにしている	/	/	○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	生活空間の中に季節を感じるものを取り入れ、また会話の中にも季節の話や話題のニュースの話を取り入れている	/	/	○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	居室は個室となっており、いつでも戻り休めるようにしている	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	構造的にほぼ直接見えないようになっているが、見えてしまうところにはカーテンで仕切りを作っている	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居の際には、出来るだけ本人が使い慣れた物等を持ち込んで頂ける様、ご家族にお話させて頂いている。	◎	/	○	利用者は仏壇や家族写真等、大切なものを持ち込み、居心地良く過ごせるようにしている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	段差はなく、開閉しやすい扉になっており、また表札などを作成し目でわかるような工夫もしている	/	/	◎	トイレの表示や居室の表札等は、利用者に分かりやすいよう工夫している。事業所内はバリアフリーになっており、安全に自立した生活が送れるよう足元には物を置かないようにしている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	目でわかるような工夫をしたり、危険なものは触れられない場所に置くようにしている	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	◎	使い慣れたものを分かりやすい場所に置き、いつでも使えるようにしている	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）	◎	利用者の安全、安心を守るために日中はチャイムを付け開閉可能にしており、外出時は必ず一緒に出るようにしており、普段から外出に同行する時も、ご自身でドアを開けられる入居者には声かけし、開けて頂くなど工夫している。	◎	◎	◎	職員は鍵をかけることの弊害について理解しており、日中は玄関等出入口には施錠しておらず、自由に出入りできるようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	入居時や契約時にご家族と話し合い理解を得ている。また施錠を望まれるご家族にも閉塞感からくる認知症の進行があることも理解して頂き、なるべく自由な生活をして頂けるよう話し合っている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）。	◎	日中は施錠はしておらず、外出の時は事務所の前を必ず通るような構造になっている。またご家族と外出される際は行先を把握しており、大体の外出時間まで教えて頂くようにしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	アセスメントシート、薬表にて、病気の把握に努めている。またスタッフ同士、情報共有している				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	健康管理表にて、血圧、検温、排泄、食事量、内服薬等の把握や管理をし、再測時等も記録に残すようにしている				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	主治医は、定期的な往診や受診で利用者の状態を把握して下さっており、担当看護師も長年のお付き合いの為、電話での相談も応じて頂いている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	受診状況は、受診記録にてスタッフ全員が把握できる様にしており、殆んどの方が入所前より協力病院が主治医の為問題は無いが、特別な病気で他病院受診の際も同行している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	入所前によく話し合い、協力医での対応を納得して下さっている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	往診や受診、検査等は日頃から家族面会時には報告する様になっている。また急な変化や受診時は、家族に電話連絡を取っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	殆んどの入院は協力医療機関の為、日頃から情報共有は出来ている。また、他の病院に入院される場合も、アセスメントシートなどの情報提供を、出来るだけ細かく記載するようにしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院中も何度が面会にお伺いし、担当NSや主治医から話が聞けるようにしている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	協力医院との関係は長い為、出来ている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	協力医療機関の看護師には、往診、受診時、訪問看護、それ以外にも状況を伝え、受診等の相談を電話でする事もある。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	△	今の所、診療時間内の対応であるが、協力医療機関は入院病棟や訪看もある為、緊急時等はその限りではない。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	健康管理表で状態の把握に努めたり、糖尿病の方の血糖値状況などは、常に往診、面会、FAX等で伝え主治医の指示を仰いでいる。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	その都度処方箋を見て確認している				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	一人の判断ではなく複数の職員で確認している				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日々体調や様子などを見て経過観察を行っている				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	主治医の往診時などに話し合いを持ち、経過や体調を伝え、医師の判断により管理している				

愛媛県グループホームすまいる

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	重度化した場合、ご家族と直接会い、最近の日々の様子、主治医の見解等、話し合う機会を持ち、ご家族の意向を確認するようにしている。				重度化や終末期のあり方については、家族の意向を尊重した上で主治医を含めた関係者で十分話し合い、方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	常に利用者の状況を報告したり、主治医との話し合いをしながら、方針を決めケアに取り組んでいる。	◎		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員の力量に関わらず、その時のマニュアルや介護方法を話し合っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	ご家族との話し合い時に具体的に説明を行っている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	利用者の状態に沿って全体的な方針を決め、また定期的にユニットで会議（ケアカンファレンス）を行っている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	○	十分な話し合いを行ない、ご家族の気持ちに寄り添いながら、思いをくみ取り、質問等にも対応している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	回覧や職員会等にて研修している。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	対応マニュアルや予防、消毒液の作り方を作成しており、時期により予防もしている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	△	その年により情報は収集していきたいと考えているが、最新情報の入手としては、不十分であるかもしれない。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	協力医療機関からの情報を早く取り入れたり、地域スタッフからの学校等の情報も早い為、流行時は早めに予防している。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗い、手指消毒は常に行い、来訪者にも文書等にて励行を呼びかけている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	入居者の日々の暮らしでのちょっとした変化や微笑ましい場面など、ホームでの生活ぶりを出来るだけお話しさせて頂く様になっている。				お花見会や敬老会等の行事案内を家族に送付して参加してもらい、一緒に食事をする等共に過ごす機会を作っている。プライバシーに配慮して広報誌等は作成していないが、遠方の家族には利用者の日頃の様子を写真を添えた手紙で報告している。職員の異動や事業所の運営上の事柄等は、家族にも理解してもらえるよう分かりやすく報告することが望まれる。家族の面会時には積極的に声をかけ、利用者の様子を伝えて家族からの要望等を聞くようにしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	遠慮がちなご家族には、居室でゆっくり過ごせる様配慮したり、会話が続かない時は橋渡ししたり、ゆっくり過ごせる様、努めている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	お花見会や敬老会等、様々な行事に参加のご案内をし、一緒に食事をして頂いたり、共に過ごす時間を持てる様支援している。	◎		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	遠方で面会にこれない家族には、日頃の生活の状況を手紙で知らせたり、写真を送付したりしている。	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	面会時、または介護計画作成時、説明時など、家族に希望や心配事などを話していただけるよう、出来るだけオープンにしている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	不安や困り事を持っている家族様には、会話を通じて話しあいができる様、努めている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	運営推進会や行事等に参加を募っているため、日々の出来事については出来る限り説明するようにしているが、職員の移動、退職までは都度、報告していない。	×		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	行事などでお会いして交流する機会を作っている				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	◎	夜間転倒などのリスクのある利用者さんへの対応等、ご家族に説明、話し合いの上、ケアしている				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	ご家族面会時には、積極的に声かけしたり、運営者も毎月の事務処理時にコメントを入れたり、電話連絡もしている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約に変更があるときは、文書にて報告し質問を受け付けている				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居時にはその過程を常にご家族に伝え、今後のことも明確にしている				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	見学時、及び契約時には必ず料金の内訳を説明し、改定がある場合は文書にて説明し、質問がある場合は受け付けている				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議などでお会いするときは説明や目的を伝えている		◎		事業所は町内会に入っており、亥の子や祭り、クリーン活動等、地域行事に積極的に参加し、日頃から住民との交流を深めている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	◎	地域の行事（いのこ・お祭り等）には参加させて頂き、また散歩等でお会いしたときは欠かさず挨拶を行っている		○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	年々地域との交流が増え、理解を深めている				
		d	地域の人気が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	○	立ち寄られることは少ないが、近所の子供たちが時々遊びに来てくれる				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	雨や災害時のことなど、挨拶も含め日常的に会話している				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	◎	行事があるときなどはいつも声をかけさせて頂き、いろいろな催し物をして下さる				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	利用者の個々の能力に合った利用者の希望することを出来るだけ取り入れるようにしている				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	◎	近所のスーパーではよく声をかけて頂き、また理美容についても地域のお店の方が訪問で来て下さり楽しくおしゃべりして頂いている				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	ご家族や地域の方に参加して頂いている	×		△	運営推進会議は事業所の行事に合わせて開催しており、利用者や町、消防等地域関係者の参加が得られているが、家族の参加はお花見会の時のみとなっている。今後は家族が参加しやすい日程にしたり、関心のある議題にしたりする等工夫して欲しい。参加者には外部評価のことを説明して理解してもらっているが、参加者からの意見やアドバイスがほとんどないため、参加者からの意見を聞き、それを運営に活かせるよう今後の取組みに期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	ご家族や地域の方が参加した際、外部評価の内容を議題に上げ報告や意見交換している			○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	運営推進会議に参加された方からの意見を取り入れ、日々のケアやサービスに活かしている		○	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	事前に連絡を入れ、参加者への配慮を行っている		○		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	毎回の議事録を提示している				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	「将来の自分(自分の家族)が入居したくなるグループホームを目指す」という理念のもと職員一人ひとりが利用者の立場に立った介護を心がけている				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	常に提示している	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修センターなどの募集一覧を提示し、職員からの希望を受け付け、また技能に応じて参加を促している				代表者は毎月定期的に職員と食事会を開催し、意見や要望を聞いてコミュニケーションを図っている。職員の希望休にも配慮してシフトを組む等、職員のストレス軽減に努め、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	定期的にユニットごとの研修や勉強会をし、質問や意見交換をしている				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	代表者・管理者等が常に連携し、職場環境に必要なものを職員と話し合いながら整備している				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	代表者や管理者は同業者との交流を図っているが、職員の同業者との直接的な交流は外部研修時にとどまっている				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	円滑にケアに集中できるよう現場管理している	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	定期的に虐待についてのアンケートをとり、また常に虐待にあたる具体的事柄を説明している				管理者は虐待等不適切なケアがないよう、常日頃から注意を払って指導しており、年に1回アンケートを実施して職員の意識を確認することで虐待防止に努めている。職員は、不適切な行為を発見した場合の対応方法や手順等について理解して共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	定期的にユニットごとにケアカンファレンスを行っている				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	今までに事例はないが、常日頃から虐待についての勉強会やアンケート調査を実施し防止に努めている。またこれらの行為を発見した場合には対処方法も常に考え手順についても熟知している			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	定期的に職員会を開き、職員の疲労状態や困っていることを聴取している				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	常日頃から虐待についての理解を高め、職員間でも話し合いを持たせている				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	定期的な職員会で身体拘束について話し合いをおこなっている				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	ご家族との相談も交えながら、利用者本人の状態を明確に伝え、必要以上の身体拘束は行わないよう理解をいただいている				

愛媛県グループホームすまいる

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	全てのスタッフではないが理解を深める努力をしている				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	ご家族からの相談や質問には随時お答えしている				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括センターとの連携はあり、相談や質問にも答えて頂けるように常に連絡を取り合っている				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	緊急時の行動や対処について勉強会を開いたり、職員間でも話し合っ周知している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	急変時の対応のマニュアルを作成しており、定期的に訓練を行っている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	小さなことでも事故報告書やヒヤリハットを作成し、職員で協議会を開き再発防止に努めている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	個々の状態によって危険予知をし、協議し周知している				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	職員は苦情があった場合は速やかに連携を取り対応できるようにしている				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	マニュアルを作成し苦情があった場合は瞬時に対応し、また必要な場合は相談をするようにしている				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情への対策を連絡・協議し速やかに対応するとともに両者とも納得のできる関係づくりを行っている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	常に利用者との会話の場を持っており、また介護相談員との連携の中で第三者にしか言えないことも情報として聞ける機会を作っている			◎	利用者の要望は日頃の会話の中で聞くよう努め、職員に言いにくいことは月に1回来訪している介護相談員を通して聞いている。家族の意見や要望は面会時に話を聞く機会を設けて聞いている。管理者は、日頃から職員の意見や提案を聞き、運営に反映できるよう話し合っている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	常にご家族とも連携をとっており、要望や苦情を受け付けている。また運営推進会議などで意見交換し、反映する努力をしている	◎		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	契約書にも記載があり、ご家族がいつでも苦情を伝える手段を提供している				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	常日頃から職員との会話や意見交換をおこなっており、必要があれば食事会や会議を開いている				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	常日頃から提案を受け付けており、利用者にとってもより良い意見は反映している			◎	

愛媛県グループホームすまいる

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	年に一度は職員全体で自己評価に取り組み、今後のサービス向上に努めるよう努力している				運営推進会議で評価結果と目標達成計画等の報告を行っているが、事業所の取り組みについて、家族の理解が得られていないため、今後は家族に事業所の取組みを理解してもらい、モニターを依頼してさらなるサービス向上に活かせるよう努めて欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価後に職員会を開き、全体の課題を明確にして今後のケアの向上に活かしている				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	目標達成計画を作成し、結果を共有し職員全体の士気向上に努めている				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	ご家族に説明し記名して頂くとともに、運営推進会議などで報告し改善点や評価を頂いている	×	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	職員全体で掲げた取り組みを記録やチェックをし、成果の確認をしている				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	消防訓練などを実施し施設のマップなどで災害時の行動などを周知している				消防署や地元の消防団と連携し、地域住民の参加も得て避難訓練を実施しているが、家族の理解が得られていないため、家族にも安心してもらえるよう緊急災害時の安全確保に万全を期して欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	消防訓練時に時間帯を想定した訓練を行っている				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消化器や非常食の点検を定期的に行い、また外部の点検業者による点検を定期的に行っている				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	消防署や地域の消防団の方とも連携を取り緊急時にはすぐ支援して頂けるよう機会を作っている	×	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	○	運営推進会議などにより災害についての議題をあげ話し合ったり、消防訓練時に地域や外部の方も参加して頂き不備や評価を頂いている				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	△	地域の方々からの質問や情報の提供があった場合には個人情報の取扱いに注意しお答えをしている				入居相談や見学者に対する相談支援にとどまっているため、地域に向けて積極的に情報発信を行い、相談ニーズの充足に努めることが望まれる。地域のイベント等への参加は積極的に行っているが、関係機関等と連携してのイベント等の実施には至っていないため、今後は町等の関係機関と連携を密にして地域活動等に取り組む等、地域における認知症ケア拠点としての事業所を目指して欲しい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	地域の方やご家族からの相談があれば、施設の関わりに関係なく情報提供や相談をしているが、今のところはご家族やご親戚の方からが多い。		○	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	△	行事やイベントがあるときは地域の方やボランティアの方々に集まって頂いている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	高校生の研修所にも活用していただいており、またボランティアにも参加して頂いている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	地域のイベントなどにも積極的に参加し、協力できることは協働している。			△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和1年11月19日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 10名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	9名	

※事業所記入

事業所番号	3873500536
事業所名	グループホームすまいる
(ユニット名)	2F
記入者(管理者)	
氏 名	鐵宮 翔太
自己評価作成日	令和1年11月1日

【事業所理念】 将来の自分(自分の家族)が入居したくなるようなグループホームを目指す。	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 利用者様の気持ちに寄り添い、安心して過ごして頂ける環境作りやコミュニケーション また、御家族様との交流を大切にし、利用者様は笑顔で過ごされている。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 「将来の自分(自分の家族)が入居したくなるようなグループホームを目指す」を理念に掲げている通り、利用者の潜在能力を活かし、日々の生活の中で機能の維持向上を図る取り組みが実践されている。職員は利用者の目線に合わせて話しかけており、職員と利用者の活き活きとした笑顔と笑い声が溢れている。管理者は職員との信頼関係を築き、事業所の運営に丁寧に取り組んでおり、今後ますます期待できる事業所である。
--	---	---

評価結果表

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	一人ひとりと会話や、接する時間を作り、希望やお気持ちを聞くようにしている。	○		◎	暮らしの中で利用者との会話や職員の気づきをもとにケアカンファレンスで話し合い、一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	常に入居者の目線になり、検討している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合い理解を深め共有している。	◎	ご家族との相談の中で「本人の思い」について話し合い理解を深め共有している。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	日々の生活を記録し、また介護相員と連携し、職員に言えないことを把握するようにしている。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	日々の引き継ぎや、職員会議にて現状の把握に努めている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居前のアセスメントシートにて、利用者さんの経歴、身体経過等、スタッフ間で共有し把握しています。ご家族様が来られた時も、お話を聞くようにしている。			◎	入居前の事前面接で、利用者や家族のほか、関係機関の担当者やこれまで関わってきた介護支援専門員等から生活歴や生活環境、身体状況等を聞き取っている。入居後も家族の面会時等に話を聞き、情報を整理した上で職員間で共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	利用者一人一人の現状身体、潜在能力等把握し、生活リハビリを取り入れ、有する力を高めるよう努力している。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	記録や引き継ぎにて、状況把握を毎日している。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	日々、職員同士で話し合いをしています。安心して生活して頂けるよう支援している。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	記録を確認し、話し合い把握するようにしています。また定期的なケアカンファレンスにて変化にも対応できるようにしている。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	日々の記録や引き継ぎをもとに、ご本人の言動や顔つき等を読み取りながら職員間で話し合っている。			◎	利用者の日々の生活の様子や言葉、家族の話、毎日の記録、申し送り等から得られた情報をもとに、計画作成担当者を中心に職員間で話し合い、利用者の視点で検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	定期的にモニタリングしたり、随時ケアカンファレンスしている。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	ケアプラン内容を把握し、カンファレンスを行い、その時必要なケアを重点的に取り組めるようにしている。				

愛媛県グループホームすまいる

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ご本人の思いをくみ取れる様、出来る限り会話したり、寄り添い、動向を確認している。				利用者や家族に話を聞いて職員等関係者で話し合い、意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	ご家族面会の折には、出来る限り多くのエピソード等を聞き取れる様対話し、課題が見つければ職員間で話し合っている。	○		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	ご本人の慣れ親しんだものを居室に置いて安心感を得られるように工夫し、ご本人の顔色や顔つきを見ながら、言葉かけや見守りを行なっている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	ご家族の意向等が明確で有る場合、ケアプランに取り入れ、支援するようにしている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	ケアプランに基づき、それに沿った支援が出来るように心がけている。			◎	利用者一人ひとりの介護計画はカンファレンスで理解し、ファイルにまとめて確認できる状態で共有している。介護記録には支援内容と利用者の状況を記録しており、計画に沿った実践内容と評価を明らかにしてケアの向上に努めている。利用者の暮らしの様子は、介護記録に具体的に記録し、職員の気づきや工夫、アイデアは業務日誌に記録して職員間で共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	職員同士話し合いの場をもうけ、日々状況確認し、よりよい支援を行うよう努力している。			○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	利用者さんの日々の状態、個別に記録し変化等、常に把握出来るようにしている。			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	日誌にて、細やかな記録を書き、日々意見支援している。			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	新規の方は、基本1～2ヶ月で見直しを行い、入居期間の長い方でも、その状態に応じ、必要であれば都度、見直しを行っている。基本、半年を目途に見直しを行っている			◎	介護計画は6か月で見直し、初回のみ2～3か月で見直している。新たな要望や変化が見られない場合でも2か月に1回の定期会議で利用者全員の状態確認を行っている。入院等状態に変化が生じた場合は、退院時に家族等関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	2ヶ月に一度の全体ケアカンファレンスと状態に応じてのケアカンファレンスを随時行っているの で、ほぼ、現状確認は出来ていると思う。			○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入退院時等、常にプランの見直しや作成をしている。またご家族とも会話を積極的に行い、情報収集をしている。			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的に職員会を開いており、また緊急案件が挙がってきた場合は必ず時間をとっている。			○	2か月に1回定期的に職員会議を開催し、夜勤者以外の職員全員で話し合っており、緊急案件があった場合は、その日出勤している職員でその都度話し合っている。参加できなかった職員には、議事録や申し送りで伝えるようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	会議では全員が発言できるようユニットリーダーを中心に進めており、職員にも事前に意見をまとめてきてもらうよう伝達している。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	当日夜勤以外は参加できるように努めている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録を作成したり、引継ぎ等にて伝達できるようにしている。			○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	日々、意見支援し2か月に一回、職員会議を行い、共有している。			○	利用者の状況や気づき、業務連絡は、業務日誌に記載して1日3回各シフト出勤時の申し送りで伝え、定期会議での決定事項等重要事項は、議事録を作成して共有している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送り時に話し合ったり、決定した事は、ノートに記入し全員が把握出来るようにしている。	◎			

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者さんの体調に応じて検討し、できるだけ叶える努力をしている。				着る服やおやつなどの時間の飲み物等は利用者を選択してもらい、洗濯物たたみ等の家事の手伝いも自分の意志で参加できるよう場面設定を心がけている。入居時のアセスメントシートから一人ひとりの生活歴を把握し、家族との会話の中からも情報を得て、利用者の興味を引く話題提供や言葉かけを行っている。調査時にもリビングは職員や利用者の笑顔や笑い声であふれていた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	第一に利用者さんの意見を優先し、着る物をご自分で選んで頂いてる。			○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	会話の中で希望を話せるような声かけを行っている。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	食事等、時間は決まっているが、一人一人のタイミングやペースに合わせて配慮している。				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	利用者さんに日々、笑顔でいてもらよう、レクや声かけし、対応している。			◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や身体の動き等、把握し、少しの反応も見逃さないようにしている。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	声かけの言葉に注意したり、トイレの戸をなるべく閉めて対応している。	○	◎	○	管理者は、職員の入職時やカンファレンス等で、利用者のプライバシーを尊重するよう指導しており、職員は常に意識して行動するようにしている。トイレ誘導等は他の利用者に気づかれないようさりげなく声をかけている。居室への入室時にはノックや声かけを徹底し、調査時にも利用者に声をかけて了承を得てから入室している様子が窺えた。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	◎	声かけや対応、常に意識し、個別の対応時は、近くに行き声かけしている。			◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	個室、扉を開め、プライバシー等配慮し、その方の状況により、ドアの外で見守ったり、少し開け見守りするようにしている。				
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室に入る前は、必ずノックしたり、声かけをし、おどろかれる事がないようにしている。			◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報漏えい防止、守られている。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	利用者、職員、お互いに感謝の言葉があり、穏やかな関係を築けている。				職員は利用者同士の関係性を把握しており、不穏な雰囲気にならないよう間に入ったり、ゲーム感覚でさりげない席替えを行ったりしている。入居歴の浅い利用者が溶け込みやすいよう声をかけ、他の利用者との橋渡しをしている様子も印象的であった。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者さん達共に協力し、支え合い、個々で刺激され、潜在能力を高めている。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	利用者同士の関係を把握し、独立する方も間に入り、皆さんと仲良く出来るよう支援している。			◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	即座に対応出来るよう見守り、間に入り解消するよう努力している。				

愛媛県グループホームすまいる

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	ご本人に聞いたり、家族様に聞いて把握している。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	ご家族様から聞いたり、本人からも話を聞き、把握している。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	ご本人との会話の中で聞きご家族様が来られた時にお話して外出したり職員もお連れできるよう協力している。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	居室にてお話しされたり、ホールでもお話できるよう心掛けている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	季節によって外出が少ない時も外気浴やドライブ等行かれ、気分転換して頂いている。	○	○	○	近くの紅葉を見にドライブしたり、毎日の買い物と一緒にしたりする等、定期的な外出支援を実施している。重度の利用者を含め、戸外に出て外気に触れ、季節感を味わってもらえるよう努めている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	行事の時などに、ボランティアに来てもらっている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	季節によって着る物を調節して、外に出て季節の雰囲気を感じて頂いている。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	職員、ご家族様と協力し、支援している。				
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	常に利用者一人一人のケアについて、職員間で話し合い支援に努力している。				利用者一人ひとりの状況を把握し、自立支援に向けて目標を立てて取り組んでいる。食事や車いす移動の際は、職員は極力手を出さず見守りながら支援している。居室入口の手すり、利用者の状況に合わせて設置したり、外したりしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	常に健康状態を把握しており、現状維持できるよう支援している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	利用者一人一人の潜在能力を生かし、出来ない時には、介助するようにしている。	○		◎	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	アセスメントシートや、会話にて本人が出来ることを探し、把握している。				調理の下ごしらえや掃除等、一人ひとりに役割や出番を作っており、利用者が進んで取り組めるよう働きかけ、張り合いや喜びに繋げている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	潜在能力に応じて手作業して頂いたり、皆様と協力して張り合いの場を作り、現状維持を保てるよう支援している。	○	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の行事に参加し、楽しめるよう支援している。				

愛媛県グループホームすまいる

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしやれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしやれについて把握している。	◎	自分で選べる方は好みの服などを選んで着られている。自分で選べない方は季節に合った服を職員で検討し着て頂いている				衣服の乱れ等を見つけた際はさりげなく声をかけ整えている。重度の利用者もフロアに出る際には着替えをして整容している。重度の利用者を含め、2か月に1回訪問美容師にお気に入りの髪型に整えてもらっている。家族と一緒になじみの美容室に出かける利用者もあり、その人らしさが保てるよう努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	定期的な訪問理容があり、好きな髪形にすることができる。また行きつけの理容室がある方は外出時にして頂くこともできる				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	本人の話を聞いたり、職員が気付いたりして支援している				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	本人と話して決めたり、自分で選べない方もその時に合った服装を選んでいる				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	ボタンの掛け違いなどさりげなくお声かけしたり、髭剃りなどは会話しながら楽しくできるように心掛けている	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	ご自分で行ける方は外出時などに行かれています。またそれ以外の方は定期的に訪問理容を利用されている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	ご家族の意見や好きな髪形をお聞かせいただいたり、どのような服が好きだったかなどをできるだけ理解している			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	入居者の状態に合った形にし、提供出来るようにしている。				献立づくり担当の職員が、他の職員や利用者の意見を聞いて1週間分ずつ作成している。利用者と一緒に近くのスーパーに毎日買い物に行き、旬の食材を調達している。近くの畑で収穫した野菜や果物のおすそ分けがあれば献立を変更することもある。昼食は調理員が、朝食と夕食は職員が作っており、利用者は調理の下ごしらえや後片付けを手伝っている。利用者の好みやアレルギーは入居時に確認している。食器は利用者の使い勝手の良いものを使用している。職員も一緒に食卓を囲み、サポートしながら食事していた。利用者全員が台所に面したりリビングで過ごしており、調理の音や匂いを感じながら食事を待っていた。献立は、栄養バランスが偏らないよう定期的に話し合っている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	日常の会話で食べたい物を聞いたり、一緒に買い物に行ったりしている。			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	買い物時、食材を選んでもらったり、食器拭きなどしてもらっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	本人やご家族から話を聞き、嫌いなものは量や味を変えて対応している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	◎	利用者の方に料理の技法を聞いたり、味付けを考えたりしている。今現在アレルギーの方はいない。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いどりと器の工夫等)	○	彩を考えたり、大きさや形、トロミなどを考えた盛り付けにしている。常に食事の状態を観察し、変化があった場合はその都度職員間で相談している				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	本人が希望されているものを使われている			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	一緒に食べながら食べにくい大きさの物は食べやすくカットしたり、苦手な物は上手に言葉がけするようにしている。一品ずつ食べようとする方は他の物も美味しいことを伝え、バランスよく食べて頂けるようにしている			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	言葉がけにて美味しさを伝えるようにしたり、口に運ぶ際に何を食べようとしているか伝えるようにしている	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	定期的に測っている体重や毎日の体調に応じて調整している。また季節や気温なども考慮している				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	飲みにくい方には飲み物を変更したり、回数を調整している				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士は在中していないが、一般的に体に良いものや、同じものばかり使わないように献立している			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	調理器具も消毒したり、新鮮な食材を前日に買い物をして使用している				

愛媛県グループホームすまいる

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	利用者の状態に合わせ、ブラシを変えたり歯磨きティッシュなどを使用し清潔に保てるようにしている				毎食後に口腔ケアを実施して利用者一人ひとりの口腔内の健康状態を把握している。自分で歯磨きができる利用者は、職員が声をかけて洗面所で歯磨きし、できない利用者は、職員が介助して口腔内の清潔保持に努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	本人の訴えや、口腔ケア時によく観察し把握している			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科受診時などに学び、共有している				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	自分でできる方はしていただき、さりげなく確認している。また介助が必要な方は支援している				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。 (歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	口臭のある方は舌のブラッシングや口臭予防のできるものを使用している			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	本人の訴えだけでなく、食事のペースが落ちてきているなどの症状が表れたときなどにも口腔内の状態を確認し、歯科医に相談し受診している				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	本人に相談する際に傷つけない言葉かけの仕方にも話し合いを持ち、本人が納得した上でその時に応じたものを使用している				トイレで排泄することを基本としており、排泄用品等の必要性を考慮した上で、利用者一人ひとりの状態に合ったものを使用している。夜間も一人で排泄できるよう、ポータブルトイレを設置する等工夫している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	個々に合った水分量や運動量の把握をし、便秘にならないよう工夫している				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	個々の利用者の排泄時間を記録し、間隔やパターンを把握できている				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	座位が取れる方・立ち上がりができる方などを把握し、個々の状態に合わせ支援している	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	本人の機能だけにとらわれず、トイレの広さや構造によっても改善に向かえるよう話し合いをしている。また運動や水分を増やすなど、出来るだけ自然な形で排泄できるよう対応している				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	全てではないが、立ち上がられた時やお部屋で休まれようとする前など、利用者の様子によって声かけし誘導で来ている				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	本人と話し合いを設けたり、職員で相談し夜間は安心して就寝できるようなものを使用している				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	職員で話し合い、利用者の変化にも気を付け使い分けている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	食事や運動を工夫し、自然排便ができるよう促している				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	ホームの構造上、曜日や時間帯は決まっているが、その日の体調を見ながら長さや温度に気を付けて入浴できるようにしている	◎		○	週に2回入浴支援を行い、要望があれば入浴日以外でも入れるよう臨機応変に対応している。リフト浴も設置されており、重度の利用者等も安全にゆっくりと入浴できる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	◎	入浴剤を使用するなど工夫している				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	自分でできることはして頂き、できないことは介助している				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	声かけに工夫し気持ちよく入って頂けるように支援している				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前には必ずバイタルチェックし、入浴後も水分補給や体調管理をしている				

愛媛県グループホームすまいる

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	就寝時間や途中起きられた時間などを記録したり、また利用者にも睡眠の状態を教えて頂き把握している				日中の活動量や日光に当たる時間を増やすことで、夜間眠れるよう工夫している。寝付けない利用者にはリビングで過ごしてもらい、安易に薬剤に頼らないようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	照明や空調を考え眠りやすい環境づくりを心がけている				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	日中に運動して頂いたり眠れていない方は休息をとって頂いている			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	その時に応じて本人に個別に取って頂いたり、重度の方は休んで頂いている				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人の希望により電話をかけたたり、またご家族にも本人の要望を伝えたり面会に来て頂けるようお伝えしている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	ご本人が手紙を書けない時は、一言でもメッセージを書いて頂いたり、名前を書いてもらうなど、各々に少しでも出来る事を促し、支援している。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	要望があれば、ホール内の携帯を繋いんだり、個室での電話も出来るようにしている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	わかる方には渡したり、読めない方には朗読や内容をお伝えしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	電話をかけたいという要望があれば随時対応しており、特に県外で面会が困難なご家族にはお手紙などを頂けるようお伝えしている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	一緒に買い物に行ったときにお菓子や個人的な日用品など欲しいものを買うようにしている				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	基本的には金銭の所持はトラブルを避けるためご家族にもご理解を得てお断りしているが、必要なものは施設での立て替えにて対応し、購入できるようにしている				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	毎日行くスーパーは地域内にあり、ホームの事も知っている為、その会話や言葉掛けで、ケアの事を理解して下さっていると思う。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	基本的には金銭の所持はトラブルを避けるためご家族にもご理解を得てお断りしているが、事務所の金庫でのお預かりはしており、必要な時にはいつでも使えるようにしている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	本人やご家族と話し合い事務所で管理できている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	ご家族との同意のもと金銭の管理は事務所にて行っている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	利用者やご家族と話し合い、自由な外出・面会など柔軟に行っている。また今までにない要望があった場合は、難しいと決めつけず安全性や体調に考慮し、話し合い検討している	◎		○	夜間の救急診療を含め、職員が病院まで付き添う等、柔軟なサービスに努めている。

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	入口に段差はなく広く取り、出入りのしやすいよう物の配置に考慮し、花を飾るなどのインテリアも考えている。	◎	◎	○	木製のベンチが置かれた玄関アプローチや駐車場は開放的で親しみやすく、花を飾る等入りやすい雰囲気になっている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそごような設えになっていないか等。）	◎	玄関には利用者や作成した花などを飾ったり、居間や廊下には季節や行事ごとに写真や飾りつけをしている	○	◎	○	リビングは広々として車いすでも動きやすく、小上がりの量の間もあり、日中そこで休んでいる利用者もいる。床暖房が心地良く、毎日の掃除や換気も行き届き、気持ちの良い空間となっている。リビングや廊下の壁には、利用者と一緒に作成した壁飾りや行事の写真を掲示している。11月からはクリスマスツリーやリースを飾り、季節感を楽しめるようにしている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日掃除し、消臭剤を置くなど不快感がないようにしている	/	/	○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	生活空間の中に季節を感じるものを取り入れ、また会話の中にも季節の話や話題のニュースの話を取り入れている	/	/	○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	居室は個室となっており、いつでも戻り休めるようにしている	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	構造的にほぼ直接見えないようになっているが、見えてしまうところにはカーテンで仕切りを作っている	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居の際には、出来るだけ本人が使い慣れた物等を持ち込んで頂ける様、ご家族にお話させて頂いている。	◎	/	○	利用者は仏壇や家族写真等、大切なものを持ち込み、居心地良く過ごせるようにしている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	段差はなく、開閉しやすい扉になっており、また表札などを作成し目でわかるような工夫もしている	/	/	◎	トイレの表示や居室の表札等は、利用者に分かりやすいよう工夫している。事業所内はバリアフリーになっており、安全に自立した生活が送れるよう足元には物を置かないようにしている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	目でわかるような工夫をしたり、危険なものは触れられない場所に置くようにしている	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	◎	使い慣れたものを分かりやすい場所に置き、いつでも使えるようにしている	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）	◎	利用者の安全、安心を守るために日中はチャイムを付け開閉可能にしており、外出時は必ず一緒に出るようにしており、普段から外出に同行する時も、ご自身でドアを開けられる入居者には声かけし、開けて頂くなど工夫している。	◎	◎	◎	職員は鍵をかけることの弊害について理解しており、日中は玄関等出入口には施錠しておらず、自由に出入りできるようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	入居時や契約時にご家族と話し合い理解を得ている。また施錠を望まれるご家族にも閉塞感からくる認知症の進行があることも理解して頂き、なるべく自由な生活をして頂けるよう話し合っている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）。	◎	日中は施錠はしておらず、外出の時は事務所の前を必ず通るような構造になっている。またご家族と外出される際は行先を把握しており、大体の外出時間まで教えて頂くようにしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	アセスメントシート、薬表にて、病気の把握に努めている。またスタッフ同士、情報共有している				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	健康管理表にて、血圧、検温、排泄、食事量、内服薬等の把握や管理をし、再測時等も記録に残すようにしている				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	主治医は、定期的な往診や受診で利用者の状態を把握して下さっており、担当看護師も長年のお付き合いの為、電話での相談も応じて頂いている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	受診状況は、受診記録にてスタッフ全員が把握できる様にしており、殆んどの方が入所前より協力病院が主治医の為問題は無いが、特別な病気で他病院受診の際も同行している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	入所前によく話し合い、協力医での対応を納得して下さっている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	往診や受診、検査等は日頃から家族面会時には報告する様になっている。また急な変化や受診時は、家族に電話連絡を取っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	殆んどの入院は協力医療機関の為、日頃から情報共有は出来ている。また、他の病院に入院される場合も、アセスメントシートなどの情報提供を、出来るだけ細かく記載するようにしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院中も何度が面会にお伺いし、担当NSや主治医から話が聞けるようにしている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	協力医院との関係は長い為、出来ている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	協力医療機関の看護師には、往診、受診時、訪問看護、それ以外にも状況を伝え、受診等の相談を電話でする事もある。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	△	今の所、診療時間内の対応であるが、協力医療機関は入院病棟や訪看もある為、緊急時等はその限りではない。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	健康管理表で状態の把握に努めたり、糖尿病の方の血糖値状況などは、常に往診、面会、FAX等で伝え主治医の指示を仰いでいる。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	その都度処方箋を見て確認している				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	一人の判断ではなく複数の職員で確認している				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日々体調や様子などを見て経過観察を行っている				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	主治医の往診時などに話し合いを持ち、経過や体調を伝え、医師の判断により管理している				

愛媛県グループホームすまいる

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	重度化した場合、ご家族と直接会い、最近の日々の様子、主治医の見解等、話し合う機会を持ち、ご家族の意向を確認するようにしている。				重度化や終末期のあり方については、家族の意向を尊重した上で主治医を含めた関係者で十分話し合い、方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	常に利用者の状況を報告したり、主治医との話し合いをしながら、方針を決めケアに取り組んでいる。	◎		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員の力量に関わらず、その時のマニュアルや介護方法を話し合っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	ご家族との話し合い時に具体的に説明を行っている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	利用者の状態に沿って全体的な方針を決め、また定期的にユニットで会議（ケアカンファレンス）を行っている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	○	十分な話し合いを行ない、ご家族の気持ちに寄り添いながら、思いをくみ取り、質問等にも対応している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	回覧や職員会等にて研修している。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	対応マニュアルや予防、消毒液の作り方を作成しており、時期により予防もしている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	△	その年により情報は収集していきたいと考えているが、最新情報の入手としては、不十分であるかもしれない。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	協力医療機関からの情報を早く取り入れたり、地域スタッフからの学校等の情報も早い為、流行時は早めに予防している。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗い、手指消毒は常に行い、来訪者にも文書等にて励行を呼びかけている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	入居者の日々の暮らしでのちょっとした変化や微笑ましい場面など、ホームでの生活ぶりを出来るだけお話しさせて頂く様になっている。				お花見会や敬老会等の行事案内を家族に送付して参加してもらい、一緒に食事をする等共に過ごす機会を作っている。プライバシーに配慮して広報誌等は作成していないが、遠方の家族には利用者の日頃の様子を写真を添えた手紙で報告している。職員の異動や事業所の運営上の事柄等は、家族にも理解してもらえるよう分かりやすく報告することが望まれる。家族の面会時には積極的に声をかけ、利用者の様子を伝えて家族からの要望等を聞くようにしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	遠慮がちなご家族には、居室でゆっくり過ごせる様配慮したり、会話が續かない時は橋渡ししたり、ゆっくり過ごせる様、努めている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	お花見会や敬老会等、様々な行事に参加のご案内をし、一緒に食事をして頂いたり、共に過ごす時間を持てる様支援している。	◎		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	遠方で面会にこれない家族には、日頃の生活の状況を手紙で知らせたり、写真を送付したりしている。	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	面会時、または介護計画作成時、説明時など、家族に希望や心配事などを話していただけるよう、出来るだけオープンにしている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	不安や困り事を持っている家族様には、会話を通じて話しあいができる様、努めている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	運営推進会や行事等に参加を募っているため、日々の出来事については出来る限り説明するようにしているが、職員の移動、退職までは都度、報告していない。	×		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	行事などでお会いして交流する機会を作っている				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	夜間転倒などのリスクのある利用者さんへの対応等、ご家族に説明、話し合いの上、ケアしている				
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約に変更があるときは、文書にて報告し質問を受け付けている				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居時にはその過程を常にご家族に伝え、今後のことも明確にしている				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	見学時、及び契約時には必ず料金の内訳を説明し、改定がある場合は文書にて説明し、質問がある場合は受け付けている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議などでお会いするときは説明や目的を伝えている		◎		事業所は町内会に入っており、亥の子や祭り、クリーン活動等、地域行事に積極的に参加し、日頃から住民との交流を深めている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	◎	地域の行事（いのこ・お祭り等）には参加させて頂き、また散歩等でお会いしたときは欠かさず挨拶を行っている		○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	年々地域との交流が増え、理解を深めている				
		d	地域の人気が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	○	立ち寄られることは少ないが、近所の子供たちが時々遊びに来てくれる				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	雨や災害時のことなど、挨拶も含め日常的に会話している				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	◎	行事があるときなどはいつも声をかけさせて頂き、いろいろな催し物をして下さる				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	利用者の個々の能力に合った利用者の希望することを出来るだけ取り入れるようにしている				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	◎	近所のスーパーではよく声をかけて頂き、また理美容についても地域のお店の方が訪問で来て下さり楽しくおしゃべりして頂いている				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	ご家族や地域の方に参加して頂いている	×		△	運営推進会議は事業所の行事に合わせて開催しており、利用者や町、消防等地域関係者の参加が得られているが、家族の参加はお花見会の時のみとなっている。今後は家族が参加しやすい日程にしたり、関心のある議題にしたりする等工夫して欲しい。参加者には外部評価のことを説明して理解してもらっているが、参加者からの意見やアドバイスがほとんどないため、参加者からの意見を聞き、それを運営に活かせるよう今後の取組みに期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	ご家族や地域の方が参加した際、外部評価の内容を議題に上げ報告や意見交換している			○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	運営推進会議に参加された方からの意見を取り入れ、日々のケアやサービスに活かしている		○	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	事前に連絡を入れ、参加者への配慮を行っている		○		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	毎回の議事録を提示している				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	「将来の自分(自分の家族)が入居したくなるグループホームを目指す」という理念のもと職員一人ひとりが利用者の立場に立った介護を心がけている				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	常に提示している	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修センターなどの募集一覧を提示し、職員からの希望を受け付け、また技能に応じて参加を促している				代表者は毎月定期的に職員と食事を開催し、意見や要望を聞いてコミュニケーションを図っている。職員の希望休にも配慮してシフトを組む等、職員のストレス軽減に努め、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	定期的にユニットごとの研修や勉強会をし、質問や意見交換をしている				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	代表者・管理者等が常に連携し、職場環境に必要なものを職員と話し合いながら整備している				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	代表者や管理者は同業者との交流を図っているが、職員の同業者との直接的な交流は外部研修時にとどまっている				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	円滑にケアに集中できるよう現場管理している	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	定期的に虐待についてのアンケートをとり、また常に虐待にあたる具体的事柄を説明している				管理者は虐待等不適切なケアがないよう、常日頃から注意を払って指導しており、年に1回アンケートを実施して職員の意識を確認することで虐待防止に努めている。職員は、不適切な行為を発見した場合の対応方法や手順等について理解して共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	定期的にユニットごとにケアカンファレンスを行っている				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	今までに事例はないが、常日頃から虐待についての勉強会やアンケート調査を実施し防止に努めている。またこれらの行為を発見した場合には対処方法も常に考え手順についても熟知している			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	定期的に職員会を開き、職員の疲労状態や困っていることを聴取している				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	常日頃から虐待についての理解を高め、職員間でも話し合いを持たせている				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	定期的な職員会で身体拘束について話し合いをおこなっている				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	ご家族との相談も交えながら、利用者本人の状態を明確に伝え、必要以上の身体拘束は行わないよう理解をいただいている				

愛媛県グループホームすまいる

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	全てのスタッフではないが理解を深める努力をしている				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	ご家族からの相談や質問には随時お答えしている				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括センターとの連携はあり、相談や質問にも答えて頂けるように常に連絡を取り合っている				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	緊急時の行動や対処について勉強会を開いたり、職員間でも話し合って周知している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	急変時の対応のマニュアルを作成しており、定期的に訓練を行っている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	小さなことでも事故報告書やヒヤリハットを作成し、職員で協議会を開き再発防止に努めている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	個々の状態によって危険予知をし、協議し周知している				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	職員は苦情があった場合は速やかに連携を取り対応できるようにしている				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	マニュアルを作成し苦情があった場合は瞬時に対応し、また必要な場合は相談をするようにしている				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情への対策を連絡・協議し速やかに対応するとともに両者とも納得のできる関係づくりを行っている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	常に利用者との会話の場を持っており、また介護相談員との連携の中で第三者にしか言えないことも情報として聞ける機会を作っている			◎	利用者の要望は日頃の会話の中で聞くよう努め、職員に言いにくいことは月に1回来訪している介護相談員を通して聞いている。家族の意見や要望は面会時に話を聞く機会を設けて聞いている。管理者は、日頃から職員の意見や提案を聞き、運営に反映できるよう話し合っている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	常にご家族とも連携をとっており、要望や苦情を受け付けている。また運営推進会議などで意見交換し、反映する努力をしている	◎		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	契約書にも記載があり、ご家族がいつでも苦情を伝える手段を提供している				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	常日頃から職員との会話や意見交換をおこなっており、必要があれば食事会や会議を開いている				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	常日頃から提案を受け付けており、利用者にとってもより良い意見は反映している			◎	

愛媛県グループホームすまいる

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	年に一度は職員全体で自己評価に取り組み、今後のサービス向上に努めるよう努力している				運営推進会議で評価結果と目標達成計画等の報告を行っているが、事業所の取り組みについて、家族の理解が得られていないため、今後は家族に事業所の取組みを理解してもらい、モニターを依頼してさらなるサービス向上に活かせるよう努めて欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価後に職員会を開き、全体の課題を明確にして今後のケアの向上に活かしている				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	目標達成計画を作成し、結果を共有し職員全体の士気向上に努めている				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	ご家族に説明し記名して頂くとともに、運営推進会議などで報告し改善点や評価を頂いている	×	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	職員全体で掲げた取り組みを記録やチェックをし、成果の確認をしている				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	消防訓練などを実施し施設のマップなどで災害時の行動などを周知している				消防署や地元の消防団と連携し、地域住民の参加も得て避難訓練を実施しているが、家族の理解が得られていないため、家族にも安心してもらえるよう緊急災害時の安全確保に万全を期して欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	消防訓練時に時間帯を想定した訓練を行っている				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消化器や非常食の点検を定期的に行い、また外部の点検業者による点検を定期的に行っている				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	消防署や地域の消防団の方とも連携を取り緊急時にはすぐ支援して頂けるよう機会を作っている	×	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	○	運営推進会議などにより災害についての議題をあげ話し合ったり、消防訓練時に地域や外部の方も参加して頂き不備や評価を頂いている				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	△	地域の方々からの質問や情報の提供があった場合には個人情報の取扱いに注意しお答えをしている				入居相談や見学者に対する相談支援にとどまっているため、地域に向けて積極的に情報発信を行い、相談ニーズの充足に努めることが望まれる。地域のイベント等への参加は積極的に行っているが、関係機関等と連携してのイベント等の実施には至っていないため、今後は町等の関係機関と連携を密にして地域活動等に取り組む等、地域における認知症ケア拠点としての事業所を目指して欲しい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	地域の方やご家族からの相談があれば、施設の関わりに関係なく情報提供や相談をしているが、今のところはご家族やご親戚の方からが多い。		○	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	△	行事やイベントがあるときは地域の方やボランティアの方々に集まって頂いている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	高校生の研修所にも活用していただいており、またボランティアにも参加して頂いている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	地域のイベントなどにも積極的に参加し、協力できることは協働している。			△	